緑の地球　第13号　2000年9月15日発行　1998年8月5日第3種郵便物認可　年6回・奇数月15日発行　年間購読料2,000円（送料ふくむ）　定価300円
発行：特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク　〒552-0002大阪市港区市岡元町3丁目9-16 元町ビル TEL. 06-6583-1719 FAX. 06-6583-1739
郵便振替　00940-2-128465 E-MAIL：gentree@ma.kcom.ne.jp　URL（ホームページ）：http://member.nifty.ne.jp/gentree/

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

昨年につづき、今年もアンズはよく実っていた（渾源県呉城郷）

Contents

●“カササギの森”始動！ …… P2
●黄土高原、夏の草花 …… P3
●自分への問いかけの旅（黄土高原ワーキングツアー） …… P4
●生きた自然・人びととの出会いに感謝 …… P7

2000.9

75

GEN に参加するには　☆会員・会報購読者になる　☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する　☆ワーキングツアーに参加する
☆ビデオ『森よ、よみがえれ！』を見る　☆使用済みテレカを集めて送るetc.　★あなたのご参加を待っています！

“カササギの森”始動！
ご協力お願いします！

ここが自分たちがつくった森だ～そういう実感をもてる場所がほしい。ワーキングツアー参加者などから、そのような要望がありました。

カウンターパートの大同事務所でも、自分たちで自由に計画し、多くの樹種を試すことのできる直営の林場がほしい、という希望があります。

この2つの思いをドッキングし、市内からそう遠くない大同県聚楽郷に場所を確保しました。小さな流れのある谷底には、ポプラ・ヤナギ・シンジュなどを植え、崖にはサージなどの灌木、上のほうの荒れ地にはマツなどを植えることにします。

みなさんから1口5万円を提供していただき、それで1haを植え（管理費を含む）、名前を掲示します。参加者が増えれば、面積を拡大していきます。

愛称を募集したところ、「カササギの森」に決まりました。

カササギ（学名：Pica pica）はカラスのなかまですが、黒と白とのコントラストが鮮やかな愛嬌者。男女をむすぶ架け橋だといって、地元の人もたいせつにしています。

中国北部、朝鮮半島には多いのに、日本では佐賀県などにわずかにいるだけです（特別天然記念物）。

ポプラなどがあるていどまで育てば、カササギはそれに巣をかけます。

谷底の流れで水場をつくれば、水浴びに集まるでしょう。

そんな光景を1日も早くみたいものです。カササギの森プランにぜひご参加ください。

大同で子どもが拾って育てていたカササギのひな

地球環境林センターの変化
拡大・新しい問題

この夏、立花吉茂代表、遠田宏顧問をはじめ、たくさんの専門家が現地を訪れました。

大きな課題は2つありました。1つは、大同市最南部でみつかった自然林の植生調査ですが、これは結果がまとまってから報告します。

もう1つが、20haまで拡大された地球環境林センターのマスタープランを立てることです。すでに正門が改修されてりっぱになり、大型車も入れるようになりました。周囲の土塀（版築）もほぼ完成しました。

苗が畑を占有するのは長くて2～3年、短ければ1年以内ですから、育苗にかんしては、長期の計画が必要なわけではありません。

問題は、すでに40数種類が集まったポプラをはじめ、この地方で育つ各種の樹木の見本園をつくることが、以前からの願いだったのですが、その場所をどこに決めるか、ということです。これは2～3年で、また植え替える、というわけにはいきません。

現地の技術者たちと相談して、土質がよくないために、苗畑として使いにくい北東の一角を使うことにしました。

このところ、センターには毎日のように見学者があり、環境問題の重要性、緑化の必要性を訴えるために、この見本園もいかす必要があります。

つぎは水問題の解決です。これまでセンターには3つの水源がありました。

第1は、センターの敷地の北東の角に砿務局が掘った深さ120mの井戸で、管理棟の生活用水、温室と実験苗圃の潅漑に使ってきました。使用料が安くはないので、大量には使えません。

第2は、この春に敷地を拡張したとき、オマケでついてきた79mの井戸ですが、しばらくは出たものの、1週間で水量が減りました。一帯の地下水位は1年に3mも低下しているそうで、この深さの井戸にはあまり期待がもてません。中期的には最低120mの井戸が必要になります。

第3は、センターの西側に立ち並ぶ砿務局の住宅から流れてくる生活汚廃水です。一帯の野菜畑でもほとんど未処理のまま使っており、センターでも大きな苗木の潅漑には使ってきました。

水不足の深刻な大同での事業ですから、この汚水を活用し、浄化して潅漑に使いたいのです。しかも、せっかくやるのですから、一帯のモデルになる設備をつくりたいのです。いま、専門家に意見と協力を求めているところです。関心のあるかたはご連絡をお願いします。（高見）

助成金・ご寄付ありがとうございます

●日中民間緑化協力委員会資金

大同市南部の太行山地区の緑化事業に、840万円の助成が決まりました。

●国土緑化推進機構「緑の募金」

・中国黄土高原における緑化協力事業に300万円の交付が決まりました。

・中国黄土高原緑化のための苗圃整備と育苗事業に200万円の交付が決まりました。

●安田火災海上保険（株）ちきゅうくらぶ

20万円の寄付をいただき、「カササギの森」4ha分としました。

この寄付制度は社員の月給からチエックオフされ、「ちきゅうくらぶ」の社会貢献活動に使われるそうです。

黄土高原、夏の草花

池本 和夫（東京都）

2000年7月、夏のワーキングツアーに初めて参加した。「黄土高原だより」51号に載っている草花を見るのも目的のひとつだ。夏の大同は日本でいえば標高1,200～1,300mの高原のような花が咲いていて、マツムシソウを初めて見た長野県の菅平を思いだした。いくつか印象深い草花を紹介する。写真が『世界の山草・野草ポケット事典』（冨山稔ほか著・NHK出版、1996年）にあるものはページ数を（　）に示した。

オオヒエンソウ（p211）：透き通るような濃いるり色の花は、最初の訪問地、大同県聚楽郷の補植作業現場に着くとすぐ見つかった。日向の乾いた黄土に背を伸ばして咲いている。気取った名前は孔雀藍。霊丘の農民は長く伸びた距を牛の角に見立てて牛角花と呼ぶ。キンポウゲ科には有毒なものが多いが、本種が家畜に食べられずに残っているのは、そのせいかもしれない。

マオウ：麻黄。叢生したトクサにイチイの赤い実が多数ついたような木本……想像してもらえるだろうか。陽高県守口堡村の古長城烽火台の一角にしがみついて生えていた。ほぼ全員が墜落の危険も忘れて禁断の赤い実を食べた。エフェドリンの交感神経興奮作用は如何？　霊丘県鍋帽山にもあった。有名な漢方薬だが地元民は採取しないのだろうか。

クサジンチョウゲ（p185）：陽高県大泉山村でのみ見た。初見は青海省アムネマチン山麓で、懐かしかった。中国名は狼毒。鶏がこの花を食べると死ぬので、地元では鬧鶏草と呼ぶ。毒性が強く汁が口や目につくと中毒するので、さわったらよく手を洗う必要がある。

これらヤバイ花ばかりでなく、トラノオ、オダマキ、ツリガネニンジン、ヒゴタイ、トリカブト、ウメバチソウ、レイジンソウ、セキチク、イワレンゲ、マツムシソウ、キキョウ、ホソバキスゲ（p225、花は食用）など日本でなじみの仲間が、霊丘自然植物園など人家から離れたところでは咲き誇っていた。

マオウは漢方薬の材料になる

絵はがき・ビデオをご利用ください

★絵はがき『中国・黄土高原』（カラー・8枚入り）

春／夏／秋・冬／緑化の4種類。橋本紘二さん撮影の写真が、大同のようすを生き生きとつたえてくれます。

・春／夏　……　1組500円（郵便番号枠5ケタ）

・秋・冬／緑化　……　1組600円

●送料別途：1組…90円、2組…160円、3組…200円、4組…240円。5組以上の場合は送料サービス。

●10組以上の場合は20%引きです。

★ビデオ『森よ、よみがえれ！』

環境破壊と貧困の悪循環、水や土などさまざまな問題と、そこでの農民の暮らし、GENの緑化協力のようすなどがコンパクトにまとめられています。

●ビデオ『森よ、よみがえれ！』（VHS・28分）

●価格：5,000円（GEN会員4,000円）

●送料別途：270円

★ご注文はGEN事務所まで。電話・FAX.・e-mailで。

GEN自然と親しむ会
神戸森林植物園で木とタネの勉強会

神戸森林植物園は総面積約140ha、世界各地から約1,200種の樹木を集めています。秋は実りの季節、多くの樹木が種子をつけます。それぞれの木がどんなふうに子孫を残すための工夫をしているのか、秋の森の景色を楽しみながら立花さん、福本さんの案内で園内を歩いてみましょう。

●日時：10月22日（日）10時30分～14時30分ごろまで

●場所：神戸市立森林植物園（神戸市北区山田町上谷上長尾1-2、入園料：大人300円、小中学生150円）

●案内：立花吉茂さん（花園大学教授・GEN代表）、福本市好さん（森林植物園スタッフ）

●集合：神戸市立森林植物園正門前に10時30分

●交通：JR「三ノ宮」駅南側神戸市バス25系統・森林植物園行きで約40分。発車は9時40分、9時56分…。

●もちもの：弁当、飲みもの、敷物、筆記用具、ポケット図鑑、雨具等

●参加費：一般700円、中学生以下200円（保険料を含む。交通費・入園料は含まない）

●申込み締切り：10月19日

●問合せ・申込み：GEN事務所まで

※小雨決行

石弘之さん講演会『21世紀の地球環境問題』

いよいよ21世紀が目前にせまっています。来たるべき21世紀、地球環境はどうなっていくのでしょうか。

世界の環境問題を現場から伝えつづけておられる石弘之さんに講演していただきます。

●日時：11月29日（水）18時30分～20時30分

●場所：クレオ大阪西（TEL. 06-6460-7800、JR・阪神「西九条」駅下車）

●参加費：一般＝1,000円、学生・GEN会員＝700円

●申込み：11月22日までにハガキ・FAX.・e-mailでGEN事務所まで。

自分への問いかけの旅

～夏の黄土高原ワーキングツアー～

7月27日から8月3日までのGEN の黄土高原ワーキングツアーは、33名が参加。昨年11月の地震で被害をうけ、外務省草の根無償で学校を再建しはじめた村を訪問したり、ホームステイするなどの体験をしました。日誌から一部をご紹介します。

大同県肖家窰村での小学校起工式に参加した

【7月28日（金）】

●朝ごはんをいただき、ワゴン車に乗ってGEN のプロジェクト地域へと向かう。車の窓からピンクや黄色、緑色の旗が見えた。その旗のところで、村の人たちが右と左にわかれて一列になって私たちを迎えてくださった。子どもたち、おじいさん、おばあさん、さまざまな人がいた。中国語がわからず残念に思うことがあった。質問されたりしても、ただ顔を見合わせたりするだけで返答できなかったので、もっと漢字を書いてもらえばよかったのかもしれない。男の子が苗木を地上に植えながら「さくら」を口ずさんでいたので、きっと私たちの聞こえるように歌ってくれたのかもしれないと思う。（梶山晶代）

【7月29日（土）】

●今日は村の小学校に行き、小学校の開工式に立ち合った。（中略）子どもたちはシャイな子もいればひとなつっこい子もいて、どの子もみんなかわいかった。しかし、言葉の壁があり、名前と年を聞いたら会話が終わってしまい、やはり言葉は大切だと感じた。

その反面、お互いに笑顔があれば暖かい気持ちが広がっていくことも感じた。また、自分から相手に歩み寄らなければコミュニケーションというものは成り立たないということも感じた。（杉山美帆）

【7月30日（日）】

●今日は大泉山で植樹をし、董庄村の農家にホームステイ。孫雲芳さんのお宅のお母さんはニコニコと美人のお嫁さん、男の子の孫の3人で迎えてくれた。昨年ホームステイが中止になっていたので、農家に泊めてもらうのが今回のツアーの楽しみのひとつだった。中国語ができないので「会話」にはならないが、筆談、ボディーランゲージなどでコミュニケーションを図り、最後は奥の手、ひたすら顔を見合わせて笑った。言葉が通じなくても、この暖かい笑顔に会えるのがうれしい。

3年前の春、自分たちが植えた木に会うために2000年に「同窓会」をと寄せ書きしましたが、今回、1人で約束を守ることになった。正直言ってあのときに植えた松が育ってくれているとは思っていないが、私たちの心の中ではちゃんと3才児になっている。たとえ1本でもいいから育ってくれた木にいつか会える日が来ることを願いつつ、また今年もツアーに参加できたことに感謝したいと思う。（S・Y）

【7月31日（月）】

●朝から雲ひとつない晴天。お世話になったお母さんと雪蘭とお別れの写真をとる。雪蘭といっしょに流れ星をみれたのが嬉しかった。（中略）ヤマナシモモ（？）をいっぱいもらった。ちょっとすっぱいけどカラカラの口にとても快い。前の植林の時もそうだったが、木の植え方が細かく定められている。そこにいきつくまでにはさまざまな失敗があったに違いない。

小学校は思ったよりもずっと大きくて校庭も広かった。ハンカチ落とし（？）がおこなわれていることに驚き。子供たちの笑顔がいい。あんまりみんながニコニコしてかけまわっているから、こっちもつられてニコニコしてしまう。もし、もっと村が発展したとしても、この笑顔はなくなってほしくないと思う。（花光浩子）

●朝、目が覚めると文字通り一点の曇りもない快晴。地形の複雑な日本では快晴といってもどこかに雲があるのが普通であり、こんな空は滅多にあるものではない。しばらく見わたしていた。午前はアンズの補植作業。終了後聞いたことだが、この希望果樹園のアンズは非常によい品種で苗もよく、頭の黒いネズミがかなり持ち去るとのこと。それは大変に困ることではあるが、われわれネットワークが育苗したアンズが高く評価されていることで嬉しくもあり、高見さんと「どうしよう」「そんなに欲しいのならば、ここに供給しようか」と話し合っているところです。（遠田宏）

【8月1日（火）】

●万人坑で若い女性の涙する姿を見て、日本人の心はまだまだ大丈夫だと思った。ミイラ化した遺体を見て、戦争とはいえひどいしわざだとつくづく感じ、絶対に戦争などするものではないと改めて肝に銘じた次第。この万人坑をみて、私の最も気にかかっている中国人の日本人への感情の問題、果たして私たちの植樹ボランティアをどのようにみているのだろうか？　と気にかかります。（小林秀三）

【8月2日（水）】

●私達の今日の宿である3つ星ホテルでは、テレビ、クーラーはもちろんのこと、水もお湯も勢いよく出ます。まさにその電気や水の源である地域を訪れ、つい昨日までその地域の将来について真剣に考えようと思っていたにもかかわらず、きれいなロビーに入ってホッとし、いつものようにテレビをつけ、クーラーで部屋を冷やし、蛇口をいっぱいに開く……。

シャワーを浴びながらふとその水の水源地のことを思い出した時、一瞬頭の中が白くなりました。“援助”ってなんだろう。今までこの5日間で私がしてきたことって何だろう。今こうして、いろんなことが頭の中で交錯する中で、自分への問いかけがあとを断ち

緑の地球ネットワーク年会費……一般会員＝12,000円・家族会員＝6,000円・学生会員＝3,000円

ません。（牧野佳奈子）

●緑化「協力」ツアーといいながらも、その実私にとっては相手方に何かをもたらしたという部分は少なく、もっぱら自らの生活や、生きざまを問い直す旅だったように思う。その問いかけを、今後、日々の中でどう実らせていくのかはとてもむずかしい。ただ、この旅で出会った中国の朋友が、あれほどの困難の中で、たくましく前を向いて生きていること。ねばり強く、緑化に、地球の病に最前線でとりくんでいることは、決して忘れてはならないと思う。（稲井由美）

●ここに来て、大同の人（事務局の人びと、お手伝いの人びと、村の人びと）の姿を目の当りにするにつけ、この活動がいかに現場の人びとにささえられているかがよくわかってきます。もうひとつ、いかにGENの活動が人びとに受け入れられているかわかりました。私は途上国での援助事業を東京でサポートする仕事をしていますが（お恥ずかしながら）、これほど農村、農民のレベルまで浸透している事業を見るのは初めてです。

「慢々的」（急がず、ゆっくり）のこの国で、これほどの手配をするのに、どれだけ大同事務所の方がたのご苦労があったか。途上国での連絡のとりにくさ、約束の不確定さを体験している者として、感服しました。参加者の方がたの専門性の高さ、意識の高さもすごいと思います。学校の先生方が多く参加されていることについても、ここでの内容をより多くの人、特に若い人に伝えていただきたい。（粕谷玲子）

【8月3日（木）】

●黄土高原の第一印象は想像していたものとは異なり、一見緑の多いものでした。しかし、よく見ると、山地には森林が非常に少なく、植林されたものも、とても良好な森林といえる状態までにいたっていないものが大部分で、農作物も生育のよくないものが少なくありませんでしたし、村人の経済状況にもそれが反映していることがよくわかりました。雨量が少ないということが、これほど人びとの生活や環境に大きな影響をおよぼしていることは、日本では全く想像できないことです。目的とする森林造成には数十年の時間が必要です。水土保全（というより回復）のためには、土壌づくりが不可欠ですので、経済林造成と合わせて、水土回復のための環境林づくりが必要です。そのために現地に適する、乾燥に耐えうる広葉樹が早くみつかってほしいものです。落葉がつもり、下層植生の回復した森林がよみがえる日の1年でも早いことを祈ります。（棟方鋼男）

陽高県大泉山村での植樹作業

次世代につなげる活動へ

江口　裕治（ダイハツ工業（株））

7月20日から26日まで、ダイハツハイキングクラブの12人が大同を訪れました。自然林が残る霊丘県の狼牙溝へのトレッキングではすばらしい健脚ぶりを発揮。メンバーの1人、江口裕治さんがGENにおよせくださった感想の一部をご紹介します。

「緑の地球ネットワーク」に参加して

ただ、中国に興味があって参加した「緑化ツアー」。会社の同僚からは「何で中国まで松の木植えに」とまで言われて参加した緑化ツアー中、下痢をして一晩中苦しみ、明くる日はフラフラになりながらのツアー活動。しかし、今となったら「また、行ってみたい」と言うのが、正直な回答。

限りないあの広大な黄土高原の大地の「緑」を蘇らせるというとてつもない活動に参加して「数本の松の木を植えるだけで、果たしてこれだけで良いのか？　何になるのか？」との「ジレンマ」に陥りました。しかし、事務局サイドの熱意・自然植物園の現地労働者の方がたの働き等を考えたら、何らかの行動をおこさねば申し訳がたたない。

また、狼牙溝村でマイクロバスを降りたとたん、僕ら（外国人）が珍しく、おじいちゃんからおばあちゃん・子どもたち等、村全員の方がたにとり囲まれた。あのあどけなさ・貧困が何ともならないのか？　等々、またも「ジレンマ」に陥っていたが、それらを打破できるような考えに達した。

いま何もできなくても、1人でできる活動から始め、手伝いたい。10年ちかく経ってようやく根づいたこの活動を、いずれは次世代につなげられるようになれば、また活動ができれば良いかな、と思っている。

植物を育てる（8）

立花　吉茂（GEN代表・花園大学教授）

●造林と自然復元

いままで自然復元のための「種子を蒔く→苗を育てる→苗を植える」順序を書いてきた。世間では森林を造るための植林を「造林」と言っている。「造林」は読んで字のごとく「林を造る」ことだが、人類がやっている「造林」は最終的には樹木を収穫物とする「単一栽培」にすぎない。これを私たちは「林業」と呼んできた。昔から「農業は1年ごと」「林業は100年ごと」と言われたりした。100倍も年数が違っていても「育てる」という点では同じである。日本では自然林を切り開いてスギやヒノキが植えられている。草本を育てる農業も木本を育てる林業も「単一栽培」に変わりはない。たくさんの種類の自然林がたった1種類の樹木にとって変わったら、それは「自然破壊」ではないのだろうか。もしそうだとすれば、造林ではなく「自然復元植林」が必要になる。

スギの植林伐採後にスギを植えてその伐採後にまたスギを植える、とすれば300年近くかかってしまう。だから日本にはまだ「連作の害」のデータは集積されていない。おそらく、土壌中の微生物類は減少しているだろう。それが将来どうなるか？　まだはっきりしたことは言えないが、環境に良くないことは言えるだろう。

●経済林、保安林と社寺林

単一栽培の森林を経済林と呼ぶ。これに対して複雑な自然林を「環境林」と呼ぶ。また別に日本には保安林がたくさんある（表1）。その多くは多数の自然の樹種の入り混じったものであり、天然林に近い形のものである。この面積が森林全体の35.5%で、スギ、ヒノキなどの経済林が約40%を占めている。残りの24.5%のうち大部分が二次林（里山を含む）である。では人が植えた複雑な森林が存在するだろうか？日本には2、3の例がある。ひとつは東京の明治神宮の森である。1915年から5年間かかって造園技術の粋をつくして造成された。ここには関東以西にあった照葉樹林を模してシイノキやカシノキなどの常緑樹が繁っており、下生えにツバキやアオキなどがある。しかし、日本にある600種もの樹種があるわけではない。もうひとつは戦後（1950年）にスタートした大阪府交野市にある大阪市立大学付属植物園である。ここには日本の南北端のふたつの樹林型を除いた12型の森林が造成され、450種も植えられているが、まだ完成していない。自然林を保護して復元を図っている場所はあるが、100種類以上の自然復元の完全な人工の森林はこのふたつだけだろう。この他に戦時中に神社の周りに造成された人工森林が各地にあるが、樹種も少なく、自然を考えず、同時に植えられただけのものなので、樹高がそろい、林床は暗くて何も生えず、単層構造の林になってしまっている（近江神宮、橿原神宮、伊勢神宮など）。しかし、このような森林でも、あちこちから動物たちが種子を運び、少しずつ種類数が増加中である。

表1　日本における保安林の種類と目的およびその面積（ヘクタール）

保安林の種類	目　的	面積（1996年）ha
水源かん養保安林	水源を守って洪水や干ばつを防ぐ	6,203,096
土砂流出防備保安林	土砂が流れて災害を起こすのを防ぐ	2,026,098
土砂崩壊防備保安林	土砂がくずれて災害を起こすのを防ぐ	47,152
飛砂防備保安林	砂が風にとばされて、家や耕地を害するのを防ぐ	16,233
防風保安林	強い風から家や耕地を守る	55,438
水害防備保安林	洪水の時に水のいきおいを妨げる	729
潮害防備保安林	風をやわらげ、海水や塩分が耕地を害するのを防ぐ	13,263
干害防備保安林	川水を守り、干ばつの害を防ぐ	42,727
防雪保安林	吹雪から道路や鉄道を守る	7
防霧保安林	霧が流れるのを防ぎ、農作物などを守る	55,549
雪崩防止保安林	なだれを防ぐ	19,075
落石防止保安林	家や道路に石が落ちるのを防ぐ	1,771
防火保安林	火事が燃え広がるのを防ぐ	405
魚つき保安林	魚のすみかを守り、繁殖を助ける	28,694
航行目標保安林	船の航行の目印になる	1,093
保健保安林	環境をよくし、人間の健康を守る	586,700
風致保安林	名勝や社寺などの景色を保存する	26,991

合計9,125,021ha.1996年3月末現在、全国で約913万haの森林が保安林として指定されているが、これは全国森林面積の35.5%にあたる。（林野庁、1997 林業統計要覧）

使用済みテレカ回収にあたってのお願い

従来回収対象であったJRオレンジカード・ハイウェイカード・私鉄プリペイドカードなどが業者に引き取ってもらえなくなりました。今後、使用済みカードの回収対象はテレフォンカードのみになります。よろしくお願いいたします。

生きた自然・人びととの出会いに感謝

柳沼　ちひろ（茨城県・大学生）

今夏のチコロナイ現地宿泊研修会は「子どもキャンプ」が参加希望者が少なく中止、「ワーキングツアー」は4人でこじんまりとおこないました。人数が少なかったぶん中身の濃いものになりました。参加者の1人の感想文をご紹介します。（武田）

この5泊6日の旅は、本当に中身の充実したものでした。星がほとんど見えない街の生活や古くさい本からは決して得られない、貴重な経験や出会いであふれていたと思います。

まずこのワーキングツアーをとおして自然の美しさと強さを、そしてそれを征服したと思っている和人のおごりを知りました。有澤先生に案内していただいた東大演習林では巨大な木々がいっぱいに伸びていて、その美しさ、力強さに圧倒されました。こういった森が昔はこの大地一面に広がっていたのです。貝沢耕一さんに案内していただいたチコロナイの森では人工樹林と自然林の違いを見て、私たち和人のしてきたこと、そしてそれを知らなかったことに反省させられました。そして、切り株から立派に成長した木にプレートをつけながら、これから私ができることをしていかなければいけないと考えさせられました。

また、チプサンケに参加したりアイヌ料理や刺しゅうを教えてもらうことで、伝統的アイヌ文化にふれることができました。そして、それを守りながら同時に今のアイヌ文化を生みだしているさまざまな人たちに出会うことができました。私は今まで本からアイヌの人たちを知り、わかったつもりでいたのです。それは恐ろしい傲慢だったとおもいます。いろんな人たちと出会い、話をし、ときにお酒を飲んだりしたのは、貴重な体験でした。そして同時に本当に楽しかったです。それは懐が深く、明るく、力強い。そういった素晴らしい人間に出会ったからだと思います。そしてそんな出会いと体験の機会をくださった武田さんに本当に感謝したいです。

第56回チコロナイ学習会

●日時：9月23日（土）15時～17時
●場所：大阪市立弁天町市民学習センター（JR環状線「弁天町」駅、地下鉄中央線「弁天町」駅から徒歩5分、TEL. 06-6577-1430）
●内容：夏の二風谷現地宿泊研修会などの報告
●参加費：200円＋カンパ
●問合せ：チコロナイ友の会・勝山（TEL. 0726-27-5390）

チコロナイアイヌ語講座 ～いやでもわかるアイヌ語～ 第6期第6回

●日時：9月23日（土）13時～15時
●場所：大阪市立弁天町市民学習センター（TEL. 06-6577-1430）
●資料代：第6期（6回）分で1,000円
●問い合わせ：平石清隆（TEL. 0745-23-5627）
★『エクスプレス・アイヌ語』（中川裕、中本ムツ子著白水社）の18の続きをやります。1回だけの飛び入り（200円）も大歓迎！

アイヌ料理を作って食べて話そう！

●日時：11月25日（土）15時～19時
●場所：大阪市立浅香人権文化センター
●主催・申込み先：大阪市立浅香人権文化センター（TEL. 06-6697-0971 FAX. 06-6697-1964）
●協力：チコロナイ友の会
●募集：20人
●材料費：1,000円

アイヌの木彫・刺しゅう体験教室

●日時：11月26日（日）10時～15時
●場所：大阪市立弁天町市民学習センター
●主催：チコロナイ友の会
●協賛：大阪市立弁天町市民学習センター
●募集：木彫り20人、刺しゅう20人
●材料費：どちらも2,000円
●申込み：チコロナイ友の会・勝山（TEL. 0726-27-5390 FAX. 0726-33-9274）
●講師：貝澤美和子さん、貝澤真紀さん
※交流会も計画していますので、上記勝山さんにお問い合わせください。

GEN関東ブランチからのお知らせ

【人形劇をやってみよう！】

大同を訪問したときに子どもたちに見てもらえるような人形劇を、みんなでいっしょにつくりませんか。

●日時：10月7日（土）15時～19時
●場所：立教大学5号館1階会議室（当日会場のTEL. 03-3985-2449）
※終了後、懇親会を予定しています。

【緑化リーダー養成講座（2）】

秋の雑木林を歩き、ドングリを集めたり紅葉を見たりしながら、自然に対する理解を深めます。

●日時：11月18日（土）10時～19日（日）16時
●場所：八王子大学セミナーハウス
●費用：社会人10,000円、学生8,000円（宿泊費／18日の夕食・19日の朝食・昼食／資料代含む。懇親会費は別途）
●もちもの：18日の昼食、水筒。自然観察にふさわしい服装。山野を歩ける靴。筆記具。洗面用具。寝間着。着替え。常備薬。ビニール袋（ドングリなどを入れる）。保険証。
●申込み：11月11日までに上田信まで（〒171-850豊島区西池袋3-34-1 立教大学文学部）
●問合せ：上田信（FAX. 03-3985-4790 e-mail : ueda@rikkyo.ac.jp）
●定員：15名（先着順）

情報ひろば いろんなかたち

国際協力フェスティバル2000

国際協力にたずさわるNGO、政府機関、国際機関などがあつまります。

●日時：10月7日（土）、8日（日）10時～17時（テント出展時間）
●場所：日比谷公園（地下鉄「日比谷」駅、「内幸町」駅、「霞ヶ関」駅すぐ）
●入場無料
●主催：国際協力フェスティバル2000実行委員会（TEL. 03-5423-0565財）国際協力推進協会内）
●フェスティバルホームページ：http://www.jca.apc.org/icf/

★買いもの用袋持参★不要な外国コインを（財）日本ユニセフ協会に

【プログラム】（一部）
▼ODA民間モニター体験談▼チャリティーラン▼各国料理の青空グルメ食堂▼NGO水先案内▼国際協力情報・相談コーナー▼国際協力BOOKフェア▼民族衣装ファッションショー▼世界の音楽ライブ▼NGOワークショップ▼各国民族音楽の体験▼各国民芸品販売……

第5回教育支援コンサート 中国琵琶と二胡と京劇と

コンサートの収益は中国湖南省桑植県・永順県と寧夏回族自治区固原県での教育支援活動に活用されます。

●日時：10月21日（土）14時～16時（開場13時30分）
●場所：豊中市立アクア文化ホール（TEL. 06-6864-3901、阪急宝塚線「曽根」駅より東へ徒歩3分）
●出演：張梅林（京劇女優）、王昀（二胡奏者）、葉衛陽（琵琶奏者）
●協力券：2,500円（当日3,000円、小中高生、留学生、障害者1,500円）
●主催：関西日中交流懇談会（TEL./FAX. 0797-88-2240）
●チケット取り扱い：関西日中交流懇談会、チケットぴあ（TEL. 06-6363-9999）

第9回　おおさか ボランティアフェスティバル

大阪で福祉や国際交流、自然環境などで活動する団体がそれぞれの活動を紹介。GENも出展するので、遊びにきてください。ボランティアスタッフも募集中！

●日時：11月4日（土）～6日（月）10時～16時（6日は15時まで）
●場所：大阪城公園「太陽の広場」（JR環状線「大阪城公園」駅すぐ）
●主催：第13回全国健康福祉祭大阪大会実行委員会、大阪ボランティア推進府民会議、大阪府社会福祉協議会
●入場無料

ふるさときゃらばん公演 『噂のファミリー　1億円の花婿』

農村の地域社会を舞台にしたカントリーミュージカルを全国で公演している“ふるさときゃらばん”が三重県阿山町にやってきます。

●日時：11月11日（土）18時開場、18時30分開演
●場所：阿山町立河合小学校
●入場料：前売3,500円、中高生3,000円
●主催：“きてだ～こ”ふるきゃら阿山公演実行委員会
●問合せ：モクモクネイチャークラブ事務局（TEL. 0595-43-2222）

編集後記

暑かった夏も終わり、空は秋の色になってきました。熱帯の毒グモ“セアカゴケグモ”が関西空港島で繁殖しているそうです。数年前の発見騒ぎのときには越冬できないだろうと言われていました。生命のたくましさでしょうか、それとも温暖化のせい？　（東川）